

施設名	常西合口用水 新庄排砂水門									
所在地	富山県 富山市									
管理者等	常西合口用水土地改良区									
施設種類・分野	河川	樋門・閘門								
施設概要 (明治期との関連含む)	常西合口用水には、常願寺川から流入する土砂を除くために、排砂水門が設けられています。明治33年に完成した排砂水門は赤レンガで造られているので、地元では「新庄の赤門」の名で親しまれ、平成5年に修理後も現役の施設として、昔ながらの手動式で水を分水している。(文献1より)		 <p>(文献1より)</p>							
築造時期	明治後期		時期詳細	明治33年						
関連人物	ヨハネス・デ・レーケ									
関連企業	-									
トピックス (特徴的エピソード)	日本屈指の急流河川である常願寺川の治水を目的として明治24年に来県したオランダ人技師のヨハネス・デ・レーケは、堤防決壊の解決策として、同川左岸の12箇所の用水取水口をひとつにする計画を立て、明治26年に常西合口用水が設けられた。延長は約12キロメートルで約5000ヘクタールの富山平野が潤されている。(文献2より)									
歴史的な遺産等の指定の有無等	-	選奨土木遺産 (土木学会)	-	文化財 (文化庁)	-	近代化産業遺産 (経産省)	-	世界遺産 (ユネスコ)	-	
その他 (関連資料、文献)	文献1: 新川広域圏 水博物館推進室HP (http://www.niikawa.or.jp/mizuhaku/news/pictures/20130206.html) 文献2: 富山県映像センターHP (http://www4.tkc.pref.toyama.jp/eizou/topics_detail.phtml?Record_ID=ffbe8a554d327b0e8c0dbce52034776c)									
管理者等のHP (URL等)	-									